

## 特定テーマ2 に対する企画提案

## ● 駅前広場を拠点とする周辺への歩行者優先の動線確保

## ▶Point

## 「岡山駅前広場整備の基本コンセプト (H28)」に基づいた動線確保の検討

- 平成 28 年度の「路面電車乗り入れを含めた岡山駅前広場のあり方検討会」において、目指す広場像として、4つの広場像が提案されており、これに対応した検討項目が掲げられています。
- 「駅前広場を拠点とする周辺への歩行者優先の動線確保」に関しては、4つの検討項目のうち、特に『交通結節点としての機能強化』『周辺のにぎわいを増すための歩行者動線の確保』に着目し、以下の観点から検討を行います。



図. 検討フロー

特定テーマ2に対する企画提案

● 駅前広場を拠点とする周辺への歩行者優先の動線確保

1 着眼点：検討の目的

≫Point 「岡山駅前広場整備の基本コンセプト」における『交通結節点としての機能強化』『周辺のにぎわいを増すための歩行者動線の確保』を目的とした検討が必要

■路面電車の乗り入れを契機にした乗換機能の強化

・駅前広場への路面電車の乗り入れを契機に、公共交通機関が岡山駅に集約され、更なる広場利用者の増加が予測されることから、広場利用者がJR、路面電車、バス、タクシー、一般車などスムーズに乗り換えができるよう、歩行者動線の確保と案内性の向上が必要です。

■岡山の玄関口（拠点）に相応しい案内性の向上と周辺施設への誘導

・岡山駅前広場は岡山の玄関口であることから、県内外の来訪者にとっての起点（拠点）であり、かつ、地域住民の待合せ空間（拠点）として位置づけられます。このため広場利用者が周辺の観光施設や行楽施設、商業施設などに迷うことなく行けるよう、周辺施設も含めた案内性の向上が必要となります。検討に当たっては、地下街と岡山駅を含めた周辺検討が必要です。

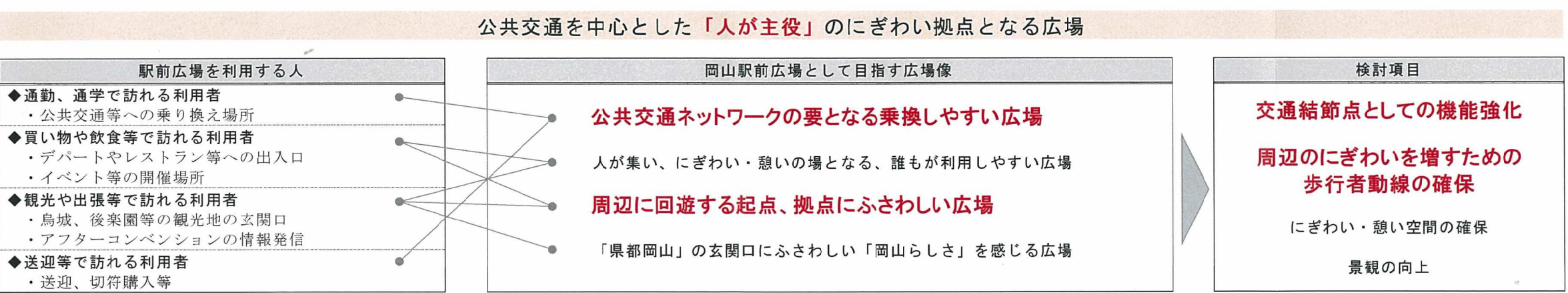
■ユニバーサルデザインへの対応

・現在の駅前広場は必ずしもバリアフリーとなっていない部分があることから、すべての利用者が安全かつ快適に移動できる動線の確保が必要です。また、近年増加傾向である外国人来訪者への対応も必須となっていることから、案内施設については外国人来訪者へのユニバーサルデザイン（多言語対応）も必要です。

■歩行者動線と連動した滞留空間の確保

・駅前広場は、周辺を回遊する起点、拠点となることから、路面電車乗り入れにより消失する「滞留空間（現在は噴水、桃太郎像）」を再び設置することが必要です。

県都岡山の玄関口にふさわしい岡山駅前広場整備の基本コンセプト



検討項目	検討方針	駅前広場機能の改善整備計画
<b>交通結節点としての機能強化</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆乗り換え利便性の向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道、路面電車、バス、タクシーなどの交通手段相互の円滑な乗り換え利便性の向上を図る</li> </ul> </li> <li>◆案内の強化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通や周辺へのわかりやすい案内の再構築を図る</li> </ul> </li> <li>◆安全性の確保               <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通、一般車、歩行者の動線の分離を図る</li> </ul> </li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>駅前広場及び周辺への動線・案内計画</b></p>
<b>周辺のにぎわいを増すための歩行者動線の確保</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆駅前広場を拠点として、周辺へにぎわいを増す歩行者優先の動線確保               <ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行者優先の動線の確保を図る</li> <li>・歩行者動線や広場内のバリアフリー化を図る</li> </ul> </li> </ul>	
にぎわい・憩い空間の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆都心部として、にぎわい、活気づく空間へ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント時における広場の利用のしやすさの向上を図る</li> <li>・にぎわい、憩いスペースの確保を図る</li> </ul> </li> <li>◆来訪者への「おもてなし」が感じられる広場づくり               <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての来訪者や訪日外国人等にとっても利用者しやすい広場を目指す</li> </ul> </li> <li>◆誰もが利用しやすい空間へ               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザインに対応し、誰もが安全に安心して利用できる広場を目指す</li> </ul> </li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>駅前広場の景観整備計画</b></p>
景観の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆県都岡山の玄関口にふさわしい景観形成               <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民や来訪者等が「岡山らしさ」を感じられる景観形成を目指す</li> </ul> </li> </ul>	

図. 基本コンセプト（出典：平成28年度 第3回路面電車乗り入れを含めた岡山駅前広場のあり方検討会）

特定テーマ 2 に対する企画提案

● 駅前広場を拠点とする周辺への歩行者優先の動線確保

2 問題点と課題

(1) 動線：ユニバーサルデザイン

Point

ユニバーサルデザイン (UD) 基準に合致しない構造を有する施設が存在

すべての広場利用者が安全に安心して利用できるよう UD 基準への対応が必要

■駅前広場

- 現在の東口駅前広場において、UD 基準を満足していない施設は、市役所筋横断歩道前の歩道とタクシー乗り場の歩道です。どちらも UD 基準の最急勾配である縦断勾配  $i=8.0\%$  を超えています。
- 特に市役所筋横断歩道前の構造については「平成 28 年度 第 2 回検討会」において、「岡山市障害者団体連合会」からも車いす利用の観点から危険であるとの意見が出されています。
- このため、地域住民及び来訪者など、すべての広場利用者が安全に安心して利用できる動線整備の検討が必要であり、UD 基準への対応が最低条件となります。



図. 市役所筋横断歩道前歩道

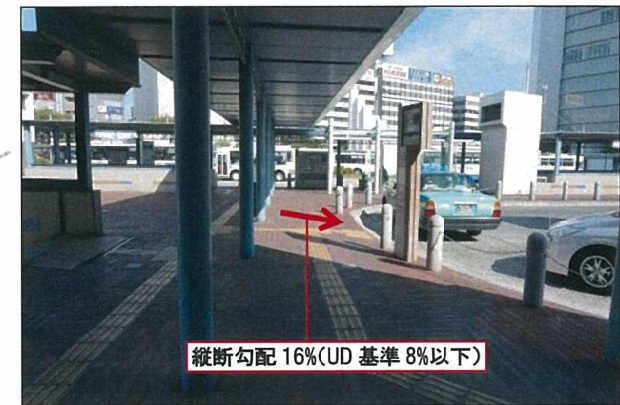


図. タクシー乗り場前歩道

■地下街

- 現在の地下街において、ユニバーサルデザインの基準を満足していない施設は、地下通路に設置された視覚障害者誘導ブロックの色、駅前広場からの動線であるエスカレーターの構造、階段の段鼻の構造です。
- 視覚障害者誘導ブロックの色は路面との輝度比が小さく見えにくいこと、エスカレーターは幅が不足し進入可否の表示がないこと、階段は段鼻の明示がないことが問題です。
- 特に地下通路は公道（駅前地下道 1～3 号線、準公共地下道）であることから、UD 基準への対応が求められます。



図. 視覚障害者誘導ブロック



図. エスカレーター



図. 階段

(2) 案内施設

Point

『見つけやすさ』『分かりやすさ』の欠如

案内性向上を図るため、案内機能・施設の集約が必要

- 利用者から「見つけやすく」かつ「分かりやすい」ことが案内施設の必要条件ですが、現在の駅前広場の案内施設は、これに十分対応していません。特に東西連絡通路正面では案内施設が溢れており、施設同士が視認性を阻害し、どれを見ればよいかわからない状況にあります。
- このため、案内性の向上を図るために、案内機能、案内施設の集約に向けた配置検討が必要です。

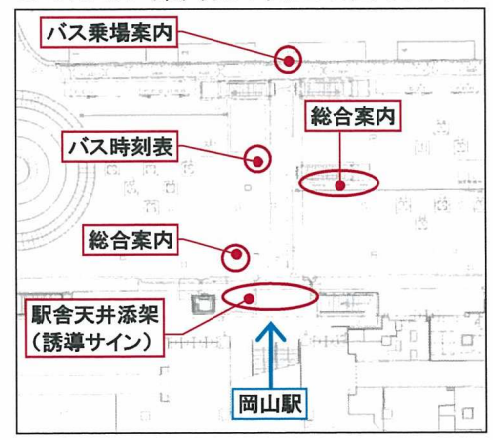


図. 既存案内施設の位置 (例)



図. 岡山駅中央階段前の案内施設の状況

(3) 路面電車乗り入れによる問題点

Point

路面電車乗り入れによる『複雑化』と『滞留空間 (待合) の消失』

案内施設の見直し検討  
市民と来訪者の滞留空間 (待合) 確保

- 駅前広場に路面電車が乗り入れることで、案内すべき公共交通施設が追加となることから、駅前広場（駅舎と地下街を含む）の案内施設の全体的な見直し検討が必要です。
- 市民と来訪者の滞留空間 (待合) として利用されている「桃太郎像」「噴水」が路面電車電停に支障することから、滞留空間の代替空間を設ける必要があります。

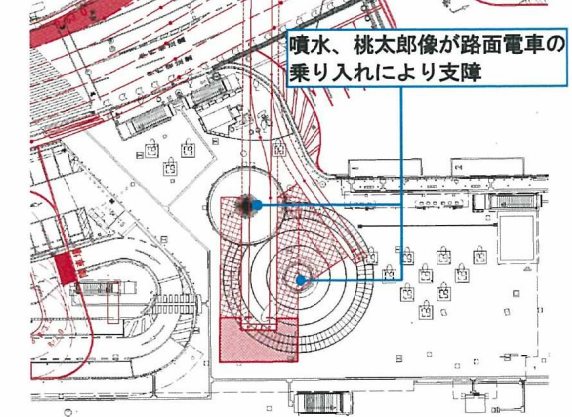


図. 路面電車乗り入れと既存施設との関係



図. 現在の利用状況